

人は群れの中で育つ

1月中旬より、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症が広がり、保護者の皆さまには大変ご心配をおかけしました。今月も園では、部屋の換気や加湿、手洗い、うがい、水分補給を引き続き行いながら、感染防止をしていきたいと思ひます。ご家庭でも睡眠や食事などを含めて、子どもたちの体調管理にご配慮をお願いします。

今年暖冬と言われていましたが、寒波が到来すると雪が降る日がありました。厳しい寒さの中でも、子どもたちは元気に園庭へ出て、たまごパックなどの容器の中にできた氷を見つけ、氷に触ったり、〇〇みたい・・・と、見立てて遊んでいました。まるで、寒くても身体を動かすと身体が温まることや、冬の自然の不思議さを感じているかのようでした。

また、子どもたちの体力増進や冬の自然との出会いを求めて、子どもたちの興味や関心のありそうなところに散歩に出かけます。子どもたちは山道の斜面を登る時は、いわれなくても転がらないように足を踏ん張ったりバランスをとったりしていますし、大人目線では見つけられないようなことを発見して、歓声を上げたり心を動かしては目を輝かせるなど、保育者も子どもの感性の豊かさに驚かされることがあります。

これからも自然を通して、子どもたちの発見や探究心を育てていきたいと思ひます。保護者の方も、お子さんと一緒のときは、お子さんの「ねえねえ・・・どうして？」にしっかり耳を傾け、お子さんの気持ちに寄り添うようにしてみてください。子どもたちは、自分の見つけたものや考えたことをお家の人から「よく見つけたね。いい考えだね。」など、共感したり認めてもらえることで自分の存在に自信を持ち、「自分は自分のままでいい

んだ」と思えることで自己肯定感を高め、自分のことは自分で考えたり、難しいことに粘り強く挑戦するなど、自信を持って意欲的に取り組もうとする力が育っていきます。この力はお子さんが成長、発達する上で大切な力となっていきます。

先月より週に一度、「ミックスジュースの日」といって、子どもたちが自分で考えて行動できることを目的に、2歳児から5歳児までの子どもたちが3つのグループに分かれて過ごしています。それぞれのグループで、子ども同士が相談しながらやってみたりあそびを決めたり、一緒に給食を食べたりしています。「〇〇くんは、これは苦手だけどこれは得意なんだね、すてきだね」など、子ども同士が相手の良いところを認め合ったり、課題に気づいたり、大きい子が小さい子の面倒を見たり、小さい子が大きい子を見習うなどの関係性が生まれることを願っています。乳幼児期に、「これはこうするもの！」と大人が決め、子どもたちの思いを受け入れることなく過ごしていると、自分で考えたり、何かをしたくなる子には育っていきません。様々な人と関わっていく中で、一人ひとりの子どもの視野が広がり、多様性を受け入れ、自分で考えて選択のできる子どもになってほしいと思ひます。

もうすぐ就学を迎える年長児は、今月、小学校へ出かけ、「がっこうごっこ」を体験する予定です。「学校ってどんなところかな?どんな勉強するの?」などを具体的に知ることで、小学校への期待も膨らんでいくことと思ひます。子どもたちが「一年生になるのが楽しみ。大きい組になったら〇〇できるね」など、楽しみに思う気持ちや少し不安に思う気持ちに寄り添いながら、思い出に残る日々を過ごしてほしいと思ひます。

園長

とんどまつり

地域の方が組み立てたとんどに子どもたちが書初めしたものや折り紙で作った飾りをつけました。無病息災を願って・・・



まめまき



節分とは、もともと季節の変わり目で立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを言ひます。暦の上では、春から新しい年が始まったため、いつの頃からか立春の前日だけが節分となり、春への折り目として3日ごろに行われていひます。神社や寺では、面を付けた鬼に向かって豆をまいて退散させる追儺や年男たちが豆をまくところもありひます。豆には、穀物の霊が宿っていると考えられていたからひです。鰯の頭を家の入り口に刺したり、柗の木の枝を刺したりするのは、鬼は鰯が嫌いなので逃げていくため。柗は、枝にとげがあるから鬼が恐れているからだと言ひわれています。

異年齢交流 ミックスジュースの日

いつもと違う友だちとのかわりは、お互いに刺激あひ、新しい発見や感動が生まれることも・・・

こうやって

ひもをまいて・・・



2歳児もいっしょに転がし

ドッジをするにはどうすればいいかな?



野菜パワ-で元気もりもり



♪キャベツ~の中か~ら♪

畑でできたキャベツを使ってみそ汁、お好み焼き、ホットドッグいろいろクッキングして食べたよ



むらさきカリフラワーできたよ~

